

ブリスベンニ於ケルノースクリップ卿ノ排日

演説大要報告ノ件

第一〇三号

(十月六日接受)

「ノースクリップ」ハ支那渡航ノ途中本月三日「ブリスベン」ニ上陸尚市主催ノ歓迎会席上ニ於テ日本問題ニ付大要左ノ通りノ演説ヲ為シタル由ナリ

濠洲国民ハ日英同盟条約ガ米國及加奈陀ニ対シ如何ニ敵意ヲ意味スルカラ諒解セザルモノノ如シ極東諸國ニシテ太平洋ニ於ケル平等居住權ヲ要求スルトモ吾人ハ之ヲ許ス能ハズ既ニ布哇ニ於テハ総人口ノ半以上ハ日本人ニシテ米國ハ之ヲ驅逐スル能ハザル状態ニ在リ濠洲ノ危険ヲ救フ唯一ノ策ハ速カニ白人人口ヲ増加セシムルニ在リ云々

尚同日同地新聞組合ノ招待セル午餐席上ニ於テ大要左ノ通

リノ演説ヲ為シタル由

余ハ「シドニー」「メルボルン」間ノ汽車旅行中一濠洲人ニ対シ十億ノ有色人ハ濠洲ニ対シ垂涎羨望ノ目ヲ見張リ居レリト語リタルニ右濠洲人ハ斯カル話ハ飽キタル程聞キタリト云ヘリサレドモ其脅威ノ程度ノ加ハルニ從ヒ飽キタル以上ニ言及セザルベカラズ即チ東洋諸國ハ人口教育能率軍備ニ於テ長足ノ進歩發展ヲ為シ殊ニ或國ノ海軍ハ世界最強ノ一ニシテ容易ニ濠洲ヲ圧倒スル地位ニ在リ斯カル場合濠洲ハ他國ノ援助ヲ予期スルモノアルガ如キモソハ誤リタル予想ナリ米國ハ濠洲ヲ援助スルガ如キコト無カルヘシ云々

在英大使へ転電セリ

事項一〇「ペルー」移民関係雑纂

三七七 三月八日 在里馬森領事ヨリ
内田外務大臣宛

静洋丸搭乗契約移民来着表進達ノ件

附屬書 森岡移民株式合資会社扱契約移民到着表

公第二八号

(五月十三日接受)

大正十年三月八日

在里馬

領事 森 浩 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

別紙静洋丸搭乗契約移民来着表御参考迄ニ及進達候 敬具

(附屬書)

森岡移民株式合資会社扱契約移民到着表

一、船名 静洋丸

一、発着 大正九年十一月二十三日横浜発
大正十年二月十三日「カリヤオ」着

県 名	カサグランデ耕地行		カニエテ耕地行		サンハシント耕地行		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
和歌山県	一	三					一	三
京都府	二	三					二	三
鹿児島県	二	二					二	二
福 島 県	二	二					二	二
山 梨 県	二	二					二	二
山 岡 県	五		一				六	
山 口 県	一						一	
計	一三	一三	一	二			一四	二
計	一三	一三	一	二			一四	二

岡 群 沖 宮 千 新 福 熊 岐 佐
山 馬 繩 城 葉 潟 岡 本 阜 賀
県 県 県 県 県 県 県 県 県

三 一 一 一 四 七 一 一
二 一
三 一 一 一 六 八 一 一
四

四
八
六 八
七
七 五
一

合 計 一 三 六 八 一 一 一 四 一 一 一
七 二 五 一 一 一 六 一 一 一
一 四 七 一 三 七 五 一 一 一 六 一 一 一

備考 到着人員出發人員ニ比シ五名ヲ減ゼルハ「パナマ」

港ニテ左記五名ノ逃走脱船者ヲ出セシニヨル

沖繩県人 屋良朝正 池原松 玉城賀吉 宮城幸
音 比嘉吉次郎

三七八 四月十八日 大野東洋汽船静洋丸船長ヨリ
田中通商局長宛

静洋丸搭載乗南米行移民ノ航海中ノ取扱及途中

逃亡ニ関シ報告ノ件

外務省通商局長

田中 都吉殿

静洋丸船長

大野象吉(印)

(四月二十一日接受)

謹啓

本船第十三次往航搭載移民総数二百四十七名ノ内六十九名
ハ自由移民(墨国行二十二名中米行四名及ビ智利行五名)
ニシテ百七十八名ハ契約移民ニシテ森岡移民会社及ビ海外

興業会社ノ取扱ノ下ニ南米秘露国砂糖耕地ニ就働スベキモ
ノニ有之候

長途ノ航海ニ候ヘバ衛生ニ意ヲ注ギ毎朝船長船医等ノ点検
ヲ行ヒ其ノ際船客一同ヲ甲板上ニ出シ日光浴ヲ行ハシムル
ト同時ニ一方室内ノ清潔法ヲ施行シ又隔日船医ノ健康診断
ヲ行ヒ食事ハ船医ヲシテ検査セシメ一週ニ二回入浴ヲナサ
シメ各港入港前ニハ必ズ入浴セシメ又体育及ビ航海ノ無聊
ヲ慰ムル目的ノ為、角力、綱引、撃剣及ビ演芸会ヲ催シ居
リ候ガ幸ニ一人ノ病者及死者ヲ出サズ航海致候

而シテ移民ノ風紀ニ関シテハ事務員ヲシテ日夜監督ノ任ニ
當ラシメ或ハ口頭ヲ以テ或ハ揭示ヲ以テ起居服装等ニ注意
セシメ居リ候ヘドモ半身裸体ニテ甲板上ヲ濶歩スル等ノ醜
態ヲ演ズルモノ往々有之ソノ都度之ガ制止ニ忙殺サレ居リ
候

移民中途中米国諸港ニ於テ逃走ヲ企ツルモノ多クコレガ防
止策ニ就テハ毎航甚ダ苦シム所ニ有之候碇泊中ハ事務員及
ビ舵手ヲシテ徹夜船内警戒ヲナサシメ陸上ニ備用人ヲ置キ
船陸共ニ嚴重ナル見張ヲ致シ居リ候ヘ共監視ノ隙ヲ窺ヒ逃
走ヲ遂行致スモノ有之候

現ニ桑港碇泊中移民二名ハ陸上ヨリ運ビタル米国風ノ洋服
ヲ纏ヒ上陸セントシテ発見セラレタル实例モ有之候

「バルボア」碇泊中荷役ノ混雜ニ紛レ左記五名逃走者ヲ出
シ候ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘズ候

原籍地沖繩県中頭郡具志川村字榮野北四〇池原松(二五)

〃 沖繩県国頭郡羽地村字川上一七五玉城賀吉(二三)

〃 沖繩県国頭郡名護村字名護九七比嘉吉次郎(二二)

〃 沖繩県国頭郡西原村字棚原二〇五〇屋良朝正(二

三)

〃 沖繩県国頭郡羽地村字川上三五四宮城幸音(一九)

「サンベドロ」港ニ於テ正規ノ手続ヲ履ミ上陸セシモノ十
三名有之候ガ右ハ墨国ノ行先地方ニヨリテハ北米ヨリ陸行
スル方近キ為保証金ヲ積ミテ一時上陸ヲ許可セラレタルモ
ノニ有之候

右御報告ニ及ビ候也 敬具

大正十年四月十八日於横浜

三七九 四月二十七日 在里馬森領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本人排斥日貨非買同盟鼓吹ノ印刷物ニ付智

利国政府ニ取締方依頼報告ノ件

第二二号

(四月三十日接受)

本月十二三日頃ヨリ又々日本人排斥日貨非買同盟ヲ鼓吹セル印刷物ヲ当地及「カリヤオ」市中ニ撒布スルモノアリ右印刷物ニハ本月十六日夜本問題ヲ討議スル為市民ノ大会ヲ催ス旨ヲ記載シ亜細亜人排斥協会仮会長陸軍中佐「ムロ」ナル者記名シ居レルカ之ニ対シ一般民心ハ別段注意ヲ払ヒ居ラサルカ如キモ労働者階級ノ者稍々動揺ノ傾向アルヤニ認メラレタルヲ以テ本官ハ直ニ当国外務次官ニ取締方ヲ請求シ置キタル処同日定刻約数百名ノ労働者及学生風ノ者集會セルモ十数名ノ警察官出張シテ會議ヲ開催セシメス退散ヲ命シ且ツ警察官ニ反抗セル者数名ヲ一時拘留ニ処シタリ尚前記「ムロ」ハ其ノ後モ引続キ何等カ運動シ居ルモノノ如ク殊ニ昨今「カリヤヲ」労働者組合ヲ煽動シテ本邦船出入ノ場合ニ本邦船ニ対シテノミ同盟罷業ヲ為サシメ乗客ノ上陸貨物ノ荷役ヲ不能ナラシメント努メ居ル趣聞込ミタルニ付本官ハ外務次官ニ対シ更ニ取締方ヲ依頼セル処同次官ハ当該官憲ヲシテ相当取締ヲ加ヘシムル旨ヲ答ヘタリ尚右「ムロ」ノ運動費ハ米国人筋ヨリ支給セラレ居ルヤノ聞込

アルニ付内偵セルモ真偽不明ナリ
在智利公使へ郵送セリ

三八〇 五月二日 内田外務大臣ヨリ
在里馬森領事宛(電報)

排日宣伝家ムロナル者ニ付精探方訓令ノ件

第一六号

貴電第二二号ニ関シ「ムロ」ノ素性及米国筋トノ關係ノ有無更ニ御精探ノ上回電アリタシ

三八一 五月六日 在里馬森領事ヨリ
内田外務大臣宛

紀洋丸搭乗契約移民来着表進達ノ件

附屬書 海外興業株式会社扱契約移民到着表

公第六三号

(七月二十五日接受)

大正十年五月六日

在里馬

領事 森 浩(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

別紙紀洋丸搭乗契約移民来着表御参考迄ニ及進達候 敬具

(附屬書)

海外興業株式会社扱契約移民到着表

一 船名 紀洋丸

一 発着 大正十年一月三十一日横浜発
大正十年三月二十二日「カリヤオ」着

本籍地	行先地名		ウマヤ耕地		チクリン耕地		カニエテ耕地		計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	合計
広島	二		二				四		四	五
山口	六		六				七		七	二
山形	一		一				二		二	二
富山	二		二				二		二	二
福島	二		二				二		二	二
徳島	二		二				二		二	二
熊本	二		二				二		二	二
静岡	一		一				一		一	一
福井	一		一				一		一	一
和歌山	三		三				七		七	一
山梨	一		一				一		一	一
鹿兒島	一		一				一		一	一
兵庫	一		一				一		一	一
東京	一		一				一		一	一
大阪	一		一				一		一	一
群馬	一		一				一		一	一
合計	二四	二四	四八	二	二	四	一四	一	一五	五五

備考 追テ出発人員ニ比シ三名ノ減員ヲ来セルハ二月十五日「ホノルル」ニ於テ左記三名ノ脱船者ヲ出セシ結果ニヨル

「カニエテ」耕地行 沖繩県人 長嶺将久、大城森永、安里永可

三八二 六月三日 在巴奈馬浜口領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

安洋丸搭乗秘露行移民航海中パナマ運河ニテ

脳脊髄膜炎患者発生ニ付報告ノ件

第三五号

（六月五日接受）

東洋汽船会社安洋丸秘露国行本邦民百五十名ヲ搭載五月二十二日巴奈馬運河 Balboa 港ニ到着シタル処翌二十三日脳脊髄膜炎患者一名ヲ発生シタルニ付直ニ上陸隔離シ一方秘魯国及智利国諸港入港ニ関スル同国検査官ノ要求ニ従ヒ嚴重ナル船内消毒及乗組員並船客全部ニ検査検査ヲ行ヒ保菌者ヲ上陸セシメ去ル一旦出港シタルカ更ニ疑似患者四名発生セシヲ以テ即日引返シ血清試験ヲ行ヒタルニ現在マデハ何等真性ノ症状ヲ呈シ居ラス然レトモ前後ノ事情ニ依リ三等船客全部ヲ運河検査所ニ収容方ヲ依頼シ六月三日出港南下セリ右残留船客ハ病菌ノ潜伏期經過後健全ナル者ヨ

リ順次約二週間位ノ内ニ沿岸航路船ニテ目的地へ輸送スル筈 在里馬領事へ転電セリ

三八三 七月八日 在里馬森領事ヨリ
内田外務大臣宛

安洋丸搭乗契約移民来着表進達ノ件

附屬書 海外興業株式会社扱契約移民到着表

公第七九号 （八月二十日接受）

大正十年七月八日

在里馬

領事 森 浩（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

別紙安洋丸搭乗移民来着表御参考迄ニ及進達候 敬具

追テ本船搭乗移民中ニ脳脊髄膜炎患者発生致候為本船ハ三等船客全部ヲ「バルボア」ニテ下船セシメ同地ニテ検査ヲ受ケシメ病毒感染ノ恐れナキヲ確メタル上当国へ転

送致シ是ガ為該移民ノ当国到着予定ヨリ遅延致候ニ付右為念申添候也

（附屬書）

海外興業株式会社扱契約移民到着表

一 船名 安洋丸 但シ「バルボア」港ニテ智利国汽船「マイセン」号ニ転乗

一 発着 大正十年三月三十日横浜発
大正十年六月二十六日「カリヤオ」着

県名	耕地名	サンアグスチン耕地			チクリン耕地			エスキヴェール耕地			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
広島県		九		九							九		九
東京都		三		三	一		一				三		三
岡山県		三		三							三		三
新潟県		一		一							一		一
高知県		一		一							一		一
福岡県		二		二	五		五				二		二
愛知県		一〇		一〇							一〇		一〇
熊本県		二		二							二		二
長野県		一		一							一		一
宮城県		一		一							一		一
山梨県		三		三							三		三
東京都		三		三							三		三
滋賀県		九		九	一		一				九		九
合計		二		二	二		二				二		二

福島県	三	一	三	一	一	一	三	一	三
茨城県	一	一	一	一	一	一	一	一	一
和歌山県	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪府	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山口県	一	一	一	一	一	一	一	一	一
香川県	一	一	一	一	一	一	一	一	一
沖繩県	二九	二	三一	六六	四六	一	一	六六	四六
合計	二九	二	三一	六六	四六	一	一	六六	四六

追テ出發人員ニ比シ十七名ノ減員ヲ來セルハ左記ノ通り事故者ヲ生シタル結果ニヨル

記

死亡者 沖繩県人 古波倉正一、松川カマド、仲宗根福八
脱船者 (「ホノルル」ニ於テ) 沖繩県人 玉城喜助、玉城長吉、金城牛、金城良榮、金城秀榮、翁長林良
病氣ノ為メ「ホノルル」ニ於テ下船療養セシメタル者
沖繩県人 比嘉徳仁、宮城文治、与儀実繁、大嶺自守
「バルボア」ニ於テ同上

沖繩県人 島袋勇一、徳川太郎、大城浜松、平良農牛

三八四 九月十四日 在里馬森領事ヨリ
内田外務大臣宛

楽洋丸搭載契約移民來着表進達ノ件

附屬書 海外興業株式会社扱契約移民到着表

公第一〇七号

大正十年九月十四日

在里馬

(十一月二十八日接受)

領事 森 浩 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

楽洋丸搭載移民來着表進達ノ件

別紙楽洋丸搭載契約移民來着表御参考迄ニ及進達候 敬具

(附屬書)

海外興業株式会社扱契約移民到着表

行先地名		本籍地	
一、船名	楽洋丸	二、發着	大正十年六月三十日横浜發 大正十年八月二十五日「カリヤオ」着
サンアグスチン耕地	男	女	計
一	一	一	二